

第18回村上記念「胃と腸」賞 海上雅光氏らに

今年で第18回を数える村上記念「胃と腸」賞の受賞論文が、海上雅光氏(虎の門病院病理)らの「肉眼像からみた食道表在癌の深達度の読み方」(本誌第27巻第2号139-155頁, 1992年掲載)に決まり, その贈呈式が去る7月21日, 早期胃癌研究会例会の席上で行われた。

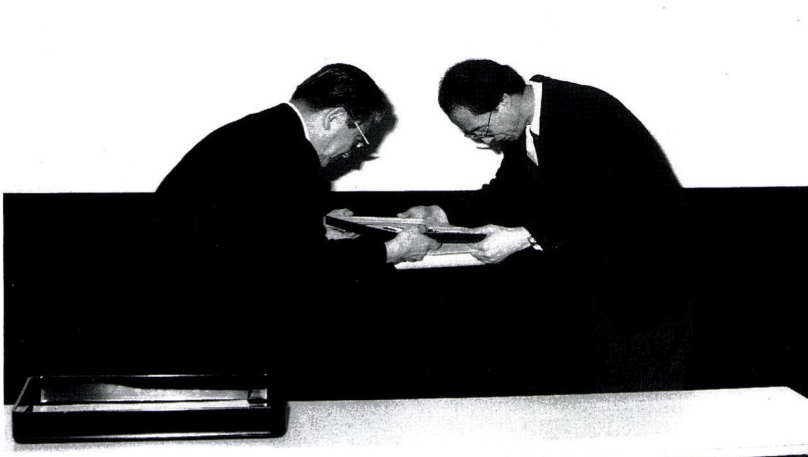
当日, あいにくの梅雨空にもかかわらず全国から参集した聴衆が見守るなか, 研究会の司会を担当した吉田操氏(都立駒込病院外科)から受賞者代表として海上氏が紹介されると, 「胃と腸」編集委員会代表の白壁彦夫氏(早期胃がん検診協会)が“いつも教えを請うている, 私の恩師”との言葉を添えつつ賞状と賞牌を授与し, 次いで, 医学書院社長金原優から賞金50万円が贈呈された。

長廻紘氏(東京女子医科大学消化器病センター)による祝辞と選考経過の説明の後, 受賞の弁を求められた海上氏は“名誉ある賞を頂戴し恐縮している。もとより私人の仕事ではなく, 虎の門病院の診断部, 外科の諸先生方が長年にわたってたゆまず努力してなされてきたことを, 私がまとめあげたものにすぎない”と挨拶し, 更に“今回の仕事を通じて, 病院内における診断部・外科・病理の良い協力関係がいかに大切かということを痛感させられた”と振り返った。また, 論文のテーマであった食道表在癌について“胃癌や大腸癌に比べてまだ研究の歴史が浅く, 早期胃癌症例が1,000例, 2,000例を超え



第18回村上記念「胃と腸」賞を受賞した海上雅光氏

た施設はまれならずあるが, 食道表在癌の症例が100を越えた施設は数えるほどしかない”と症例集積への期待を述べ, “今回の受賞を励みとして, 食道癌の早期診断・早期治療に寄与できるよう, 今後も精一杯頑張りたい”と抱負を語った。最後に, 五十嵐勤氏(福島県立医科大学第2内科)への謝意を表して, 満場の祝福を受けた。



白壁彦夫氏から賞状を受ける海上氏



選考経過を述べる長廻紘氏